

第20回マイコンカーラリー山形県大会

第20回マイコンカーラリー実行委員会 事務局長
羽黒高等学校 本間 智哉

1 はじめに

平成30年10月27日(土)羽黒高等学校総合体育館を会場に、第20回マイコンカーラリー山形県大会が30台のマシン参加のもと開催された。

2 参加登録校と参加台数

長井工業	Basic Class	6台
山形工業	Advanced Class	1台
寒河江工業	Advanced Class	1台
	Basic Class	1台
創学館	Advanced Class	1台
	Basic Class	4台
	画像処理部門	1台
村山産業	Advanced Class	2台
	Basic Class	5台
新庄神室	Advanced Class	1台
	Basic Class	1台
鶴岡工業	Basic Class	4台
酒田光陵	画像処理部門	1台
羽黒	Basic Class	1台

【参加校 9校、参加台数 30台】

Advanced Class 5校 6台

Basic Class 7校 22台

画像処理部門 2校 2台

(第18回大会は11校、参加台数57台)

第19大会は11校、参加台数49台)

ここ数年続けて、参加数減少傾向にある。



3 競技結果

競技は2台並走のタイムレースとし、in、out コース各々1回走行を行い、ベストタイムによって順

位を決定する。学校対抗の表彰は、Advanced、Basic 両部門のポイントをまとめ、合計点で順位を決め表彰する。また、今大会は、1月の全国大会で初めて「画像処理部門」のエキシビジョンを行うため、本県でも年度途中に参加者を募ったところ、東北で唯一2校2台の出場希望があり実施できた。そのうちの1台が東北代表として全国大会に参加することになった。

各部門の結果は以下の通りである。

【学校対抗】

優勝 寒河江工業高等学校

第2位 村山産業高等学校

第3位 神室産業高等学校

【個人】

Advanced Class

優勝 山形工業 元木 達彦(全国大会)

第2位 創学館 高梨 恵輔(全国大会)

寒河江工業 相座 一輝(全国大会第3代表)

Basic Class

優勝 長井工業 鈴木 利奈(全国大会)

第2位 創学館 横山 崇徳

第3位 長井工業 木内 萌歌

第4位 長井工業 遠藤 千優

第5位 創学館 齋藤 琉暉

寒河江工業 楨 優真(全国大会第2代表)

画像処理部門

第1位 酒田光陵 庄司 尚輝(全国大会)



Advanced では今年もコースアウトとなるマシンが続出し、完走率は40.0%、一方Basicは完走率は若干回復し45.5%であった。画像処理部門は、2台の

うち1台は完走できた。そんな中、Advanced Classの元木くんは、コースにもよるが12.19秒という昨年より0.5秒ほど縮めての優勝。全国でもトップクラスのタイムという事で、大会での活躍が期待された。

4 全国大会

今年度も本県に、Advanced Class 3台、Basic Class 2台の出場枠が与えられ、成績上位で推薦された先記の5名が平成31年1月13日（日）に東京都八王子市の日本工学院専門学校を会場に開催された全国大会「ジャパンマイコンカーラリー2019」に出場した。また、今年度から始まった「画像処理部門」のエキシビジョンにも東北の代表として1台参加した。

全国大会ではまず予選走行を行って、決勝トーナメントに進出する代表者をタイム順に決定することになっている。出場総数は、131台で、画像処理の分が増えた形となった。

Advanced Class は、参加台数 76 台で、完走台数 51 台 完走率 67.1%(昨年比約 12%向上)

Basic Class は、参加台数 47 台 完走台数 32 台 完走率 68.1% (昨年度比 1.4%向上)

決勝トーナメントに進めるのは Advanced Class が上位 8 台、Basic Class が上位 4 台と、昨年度に引き続き、大変狭き門であった。本県選手の予選結果は、Advanced Class で第1代表の元木達彦（山形工業）がコースアウト。第2代表の高梨恵輔（創学館）が43位（18"41）。第3代表の相座一輝（寒河江工業）は、コースアウトあった。Basic Class では、第1代表の鈴木利奈（長井工業）が32"02で31位、第2代表の槇優真（寒河江工業）がコースアウトと、記録は残らず、残念ながら5名とも決勝トーナメント進出はできなかった。

全国8ブロックから1台ずつ参加の画像処理部門は、競技の形ではないが、庄司尚輝（酒田光陵）が、参考記録 39"25 で全国3番目の記録であった。

5 県大会を振り返って

日立ドキュメントソリューションズ協賛の元、高産連や工業部会からの補助のおかげで、資金面では心配することなく運営することができた。

県大会は、昨年同様、本校の大きな体育館を全面使用した。開閉会式と大会会場をハッキリ分けたこ

とで、大会そのものは余裕をもって実施できた。反省点として、今回のように出場台数が少ない Advanced Class のような場合、全国大会出場権の決め方を、直前の代表者会議の中で、予めハッキリさせておくべきだった。ただ、レアケースは起こり得る。「公正に、迅速に」といった意味では、表彰委員会を踏んで、競技規則に照らし合わせ行えたので、むしろ成功例としたい。

また、本校以外に鶴岡工業高校、酒田光陵高校の庄内三校が事務局として運営した二度目の大会であったため、昨年同様の分業が功を奏し、ギクシャクせず動くことができた。更に、三校ともに大会補助役員として一名ずつの教員を増員してくれたり、本校以外の生徒を数名ずつ配置してくださり、様々な業務が滞滞なく行えた。

更に、担当3年目になった日立ドキュメントソリューションズの近野さんや、一昨年度事務局であった米沢工業高校の金子豊先生からのアドバイスは、大会を無事に終えられたことの要因となったことは言うまでもない。改めて感謝いたしたい。

6 終わりに

全国大会上位進出の難しさは結果の通りであるが、画像処理部門が明るいニュースだ。今後の全国大会は、東京一極集中ではなく、大会開催可能ブロックの持ち回りと聞いている。本県は開催県に希望していないが、大会そのものの変化に対応していくべきだろう。また、本県の参加台数が、年々減少してきたことに歯止めをかけられないまま、事務局担当を終えることは、心残りである。

